

【文学研究科国際言語教育専攻】

教員養成に対する理念・構想

英語教育専修

英語がコミュニケーション・商業・外交活動の言語として世界的に利用される機会が増大した結果、英語研究・教育は教育機関や国家・地域行政において重要な関心事となっている。こうした状況を背景に、英語教育界ではこれまでも増して優秀な英語教師を輩出する必要に迫られている。このようなニーズに応えるため、創価大学文学研究科国際言語教育専攻英語教育専修では、優れた教授能力を教室で示すことができ、教育機関において指導力を発揮できる英語科教員の輩出を目指している。

英語教育専修は、以下の4つの教育目標を掲げている。

1. 学習理論と教授法を理解し応用できる能力を養う。
2. 研究方法を理解、応用し、研究を遂行できる能力を養う。
3. 実践的な指導経験と練習を積む。
4. 研究の遂行や選択科目での学び、或いは個々の興味、関心を通し各自の専門領域を発見、開発する。

言語教育に関する基礎知識とスキルを身につけた修了生は、それぞれの環境において有能な英語科教員として活躍していくことが期待される。

日本語教育専修

創価大学大学院文学研究科国際言語教育専攻日本語教育専修における国語科の教員養成は、言語としての教育を重視するところにその特徴がある。具体的には文章表現指導法や読解指導法といった言語表現の指導法について、本学学部生対象の「学術文章作法」授業の参与観察をはじめとする実践演習をカリキュラムに置いて、指導力のある国語科教員の輩出を目指している。

また、専攻名が示すとおり、日本語を世界の言語の中の一つと位置づけてお

り、国際的な視野から留学生と共に日本語の持つ文化的豊かさやその言語的特質について、理解を深めることが可能なカリキュラムを備えている。さらに、外国人を対象とする第 2 言語としての日本語教育について学ぶことによって、外国人児童生徒や帰国生の日本語指導ができるようになるだけでなく、異言語・異文化の人々と日本語を通して伝え合い、理解し合う経験を積むことで、コミュニケーション能力を育むための適切な指導力を身に付けることが可能となる。

また、こうした言語活動によって鍛えられた論理的思考力は、文章や資料を読むとき、あるいは講演を聴いたり、ディスカッションをしたりするときには、そこから情報をつかみ取るだけでなく、内容について判断・評価する力となり、さらに自身の考えを相手や場に応じた的確に表現する力となる。

グローバル市民の育成が叫ばれ、高度なコミュニケーション能力が求められる時代にあって、すべての基盤となる国語能力の重要性は増すばかりである。本専修では、我が国の言語文化を深く理解し、大切にする態度を持ちつつ、各教科の学習の土台となるしっかりとした国語能力を身に付けさせられる国語教師、異言語・異文化を尊重できる寛容かつ国際感覚豊かな国語教師の養成を目標としている。